

## 【取組内容③】 英語スピーチコンテストに向けて家庭での個別練習をサポート

## 【実践の目的】

英語スピーチコンテストに向けて英文の音読練習をオンラインで行うことにより、家庭での練習をサポートする。

## 【実践内容】

Googlemeetを使用し、生徒と時間を決めてオンラインで音読の練習を行う。発音が難しい英単語を練習したり、使えてしまいがちな表現を別な表現に変えるよう指示する。直接ではないが、英語特有の発音方法などは映像を通して説明、指導をする。



## 【実践を振り返って】

## ☆ICT活用が有効であった点

映像を通してだったが、タイムラグがなく練習することができたので、通常の練習と同じように練習することができた。登下校の心配をせず、それぞれの場所で練習することに集中できた。

## ★ICT活用の仕方で工夫が必要であった点

映像と文章を両方提示して説明できるよう、指導者のさらなるICT活用能力が必要であると感じた。

## 【取組内容④】欠席連絡フォーム

## 【実践の目的】

欠席連絡フォームを用いた欠席等の連絡により、情報の一元集約を図る。

## 【使用したアプリ】

Googleフォーム

## 【実践内容】

- ①Googleフォームで作成する。
- ②回答フォームのURLをコピーし、二次元コードを作成する。
- ③二次元コードを保護者に配布する。
- ④保護者は、配布された二次元コードからアクセスし、自分のスマートフォンやパソコン等を用いて回答する。
- ⑤回答後は、結果が自動的に集計され、クラス担任が確認する。

2セクション中1個目のセクション

## 矢板市立片岡中学校欠席連絡フォーム

・お子様の欠席・遅刻・早退の連絡は、前日の午後1時から当日8時10分までの間をお願いします。  
 ・御兄弟姉妹のお子様も、欠席・遅刻・早退の場合、別々に入力・送信をお願いします  
 ・必ず保護者の方が入力するようお願いいたします。  
 ・入力内容によって、学校から連絡させていただく場合があります。  
 ＊このページをお使いのPCやスマホのブラウザで、お気入りに登録されますと便利です。  
 【＊テスト送信も受け付けております。その場合、欠席・遅刻・早退の選択欄は【テスト送信】をお選びください。】

日付を選んでください。

＊日付の下を押しますと月全体が表示されます。設定ボタンを押すと日付が決定します。

年月日



欠席・遅刻・早退の選択をお願いします。  
 ＊テスト送信の方は【テスト送信】を選んでください。

 欠席

 遅刻

 早退

 【テスト送信】

理由をお書きください。(遅刻・早退の場合、理由と登下校の時間の記入をお願いします。)例：通院 10:30  
 【＊テスト送信の方も記入をお願いします。】

記述式テキスト (短文回答)

## 【実践を振り返って】

☆ICT活用が有効であった点

朝の時間帯に、電話が繋がりがづらい状況が改善できた。

★ICT活用の仕方で工夫が必要であった点

質問内容の精選と、なりすまし防止のために連絡者の氏名を記載させる必要がある。

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

矢板市立片岡中学校

## 【取組内容③】デジタル連絡～カメラ機能を用いての教科準備物連絡～

## 【実践の目的】

授業準備等の連絡をメモする時間を短縮する。また、欠席の生徒への連絡が容易にできるようにする。

## 【使用したアプリ】

Googleクラスルーム  
カメラ

## 【実践内容】

- ・タブレットPCのカメラ機能を用いて、教科連絡事項を撮影する。
- ・Googleクラスルームに掲載する。

9月14日

成績カードはおうちの人に見せましたか？  
学習のこと、進路のこと、話す機会をもてるといいですね。  
進路希望アンケートも2日め切なので、時間をかけてお話し合いをしてください。

時	教科	内容	宿題・持ちもの
1	英	Unit4 単元テスト	教科書、ワーク、 Googleクラスルーム
2	技	音階の活用	タブレットPC
3	技		
4	教	トビイロの活用	問2 (1,100) 教科書、ノート、ファイル
5	給	二期作発表	
6	社	アンケートについて	タブレットPC

木曜日

## 【実践を振り返って】

☆ICT活用が有効であった点

- ・帰りの会に不在だった生徒が準備物等を確認することができた。
- ・伝えたいメッセージもいっしょに掲載できる。

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

矢板市立片岡中学校

## 【取組内容①】理科 私たちの食べている部分は何かを考えよう

## 【授業の目的】

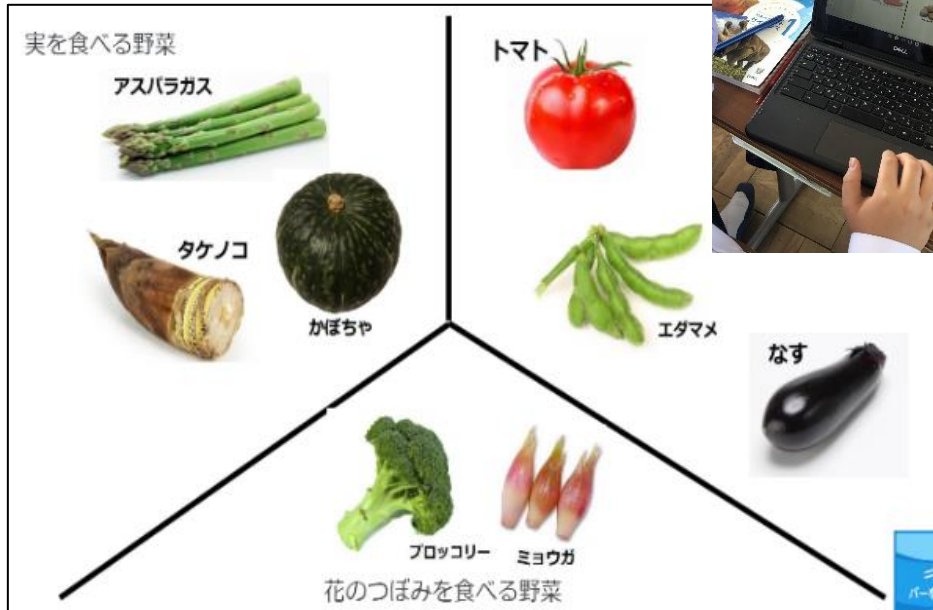
私たちが食べている野菜は、葉・茎・根のどの部分なのかを考えよう。

## 【実践内容】

ジャムボードを活用し、野菜の可食部位が葉・茎・根のどの部分に当てはまるのかを、考えさせた。振り返りもジャムボードで行い各グループでまとめたことを全体で共有した。

## 【使用したアプリ】

Googleジャムボード



## 【実践を振り返って】

## ☆ICT活用が有効であった点

紙ではなく、ジャムボードを用いたことで、意見の交換やパネルの移動・比較が容易に行うことができた。使ったファイルはGoogleドライブに保存しておき、後日さらなる内容の探求の際に活用することができた。

## ★ICT活用の仕方工夫が必要であった点

生徒一人ずつにファイルを配布するのではなく、班ごとに1つのファイルで共有をかけて作業したほうが、グループでの活用にも有効であった。